

# 令和4年度 旧宇和島管内 生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和4年7月29日（金） 10:00～12:00

2 場 所 宇和島市立岩松公民館 大集会室

## 3 講演内容

- ・ 演 題1 「『わかたけ』について」
- ・ 講 師 宇和島市こども支援教室「わかたけ」 室 長 三好 賢一 氏
- ・ 演 題2 「『サポートルーム』について」
- ・ 講 師 宇和島市立城東中学校 登校ナビゲーター 谷 慎一 氏

### (1) 「『わかたけ』について」

#### ア 適応指導教室の全国の状況（R2）

(ア) 設置数…1,555か所

(イ) 在室者…小学生6,024人、中学生15,412人

#### イ 宇和島市こども支援教室「わかたけ」について

##### (ア) 開設のねらい

- 心理的・情緒的な要因により不登校またはその傾向にある児童生徒に対し、教育相談や集団生活への適応指導・学習指導を通して、心の醸成と学校復帰への支援を行う。

##### (イ) 運営方針

- 児童生徒の自主性を尊重しつつ、社会的自立のための支援を行う。
- 不登校児童生徒の心の居場所とする。

##### (ウ) 活動内容

- 「マイプランタイム」…自主的に一日の活動計画を立てる。
- 「ふれあい活動」…友達や相談員との交流を図る。
- 「チャレンジ学習」…一人一人が自分の学力に応じた課題に自主的に取り組む。
- 「わかたけタイム」…個別相談や話合いの時間とする。



<写真1 ふれあい活動>



<写真2 チャレンジ学習>



<写真3 体験活動>

##### (エ) 関係諸機関との連携

- 医療機関、教育委員会、保護者など
- 学級担任（メール、期末テストの実施、プリント学習、学級担任による見学）  
連携を密にすることで、児童生徒の活動状況を共有するとともに、学級担任の積極的な来室を促している。

##### (オ) 通室生について

- 医療機関を受診している児童生徒も多く、個々で課題が異なっている。
- 宇和島市周辺の小学校はほとんどが小規模校であり、中学校進学を機に、生徒数が大幅に増えることに関して不安を抱える児童生徒も多い。
- わかたけを「学校以外にある別室」として捉えさえ、職員は児童生徒の実態に寄り添い、学校復帰を願いながら、「長い目」で彼らの成長や自立を見守っている。

## (2) 「『サポートルーム』について」

### ア 城東中学校での取組について

#### (ア) 設置にあたって

昨年度より開始された校内サポートルーム設置事業が、今年度から城東中学校でも始まった。これは「不登校0」を実現するための本県独自の不登校対策である。県内8中学校をモデル校に指定し、サポートルームを校内に設置することで、不登校またはその傾向にある生徒への支援に特化した取組を推進している。

#### (イ) サポートルームの様子

- 現在、校内の3か所に部屋を設置している。いずれの部屋もパーテーション等で仕切りを設置し、落ち着いて学習に取り組むことができるようにした。また他の生徒の視線を気にせず入退室できるように導線を分けたり、気分転換を図りリラックスできるスペースを確保したりした。
- 「教室らしくない教室」というコンセプトのもと、利用する児童生徒の「安心」「成長」「学び」が保障できる環境づくりを目指している。

#### (ウ) 生徒の変化

- 複数の部屋を設けることで個別支援を行うことが可能になり、生徒が登校できやすくなった。
- 生徒同士が学び合うことや、お互いに悩みを打ち明け共有することができ、安心して過ごすことができた。
- 一対一の学習支援により、自らの学習課題を解決したり、達成感を味わったりと、目的意識を持って登校できた。
- 「集団の中での生活が苦手」という理由でこれまで登校ができなかった生徒が、レクリエーションを通して他の利用生徒と積極的にコミュニケーションを図ることができるようになった。

#### (エ) 今後の展望

- 現段階で、校内のすべての不登校生徒と関わることがまだ出来ていない。2学期は、家庭訪問等を実施し、生徒や保護者との「つながり」をさらに強めていきたい。
- 2学期は学校行事も多い。少しずつ自学級との関わりが持てるように「チャレンジデー」を設定し、終わりの会や得意な教科の授業に参加できるようにさせたい。

## 4 参加者感想

- 私はこれまで小規模校に勤務してきました。生徒指導上の問題は多くはなく、自分自身の不登校に対する意識も高くなかったかもしれません。「わかたけ」や「サポートルーム」の詳細について知ることができ、不登校や不登校傾向の児童生徒の心を深く考えるきっかけになりました。
- 自分の居場所や生き方を選ぶために、「わかたけ」や「サポートルーム」など、義務教育期間に児童生徒に多くの選択肢を与えることが大切であると感じました。
- 児童生徒が感じる「生きづらさ」を把握し、子どもが安心して過ごせる居場所をつくるのが大切だと感じました。子どもに視線を合わせ、無理のない目標を持たせるなど、多くの成功体験ができるように、指導者、支援者として努力していこうと思います。
- 長い目でゆっくと児童生徒の成長を見守り、そして関わっていくことの大切さを学ぶことができました。
- 「わかたけ」に通級する児童生徒の特長として、「対人関係能力が弱い」「繊細な心を持っている」「耐性が弱い」ということが挙げられていました。自校にも同様の特徴を持つ子どもがおり、これまで以上に心に寄り添った支援が大切であると感じました。
- これまでは「学校や学級への復帰」を最終目標とすることに重きを置いていました。しかし今回の研修で、それだけが目標でないことにも気が付くことができました。  
子どもの成長を長い目で見守り、社会的自立の実現に向けて、温かい支援や応援をしていくことの重要性に気が付くことができました。